

第 48 回 歴史探訪の会

「橿原神宮から今井町・河合酒造へウォーク」

開催日:平成 28 年 1 月 20 日

場所:奈良県橿原市

案内人:田原誠也

コース内の見所の解説は、内海春樹会員にご対応頂きました。

橿原神宮は初代神武天皇を祀る為、天皇の宮（畝傍橿原宮）があったとされるこの地に官幣大社として明治天皇が創建、此処から初代神武天皇陵、2代綏靖(すいぜい)天皇陵を巡り、現在も江戸時代そのままのたたずまいと情緒を残す今井町へ向かいます。今井町は環濠城塞都市、又自治都市として「海の堺」「陸の今井」と並び称されて栄えました。河合酒造ではお酒の試飲、奈良漬、酒ケーキ試食と住宅見学をしました。

コース: 橿原神宮前駅前広場 10 時出発(今井町まで約 4Km)橿原神宮前～橿原神宮参拝(トイレあり)～若桜友苑～初代 神武天皇陵～第 2 代 綏靖天皇陵～今井町まちなみ交流センター(トイレあり)～蘇武之井公園(昼食・トイレあり)～河合家住宅・酒蔵(お酒試飲と奈良漬、酒ケーキ試食と河合家住宅見学)、お酒(出世男)や奈良漬、酒ケーキの販売あり～解散(解散後は自由行動)～今井町散策OR八木西口駅。

橿原神宮

初代天皇とされている神武天皇を祀るため、神武天皇の宮（畝傍橿原宮）があったとされるこの地に、橿原神宮創建の民間有志の請願に感銘を受けた明治天皇により、1890 年（明治 23 年）4 月 2 日に官幣大社として創建された。祭神は神武天皇とその皇后・媛蹈鞬五十鈴媛(ひめたたらいすずひめ)。本殿(重要文化財)は京都御所の賢所(かしこどころ)を移築された。畝傍山の南東麓、約 50 万平方メートルもの広大な神域に建てられた檜皮葺き(ひわだぶき)で素木(しらき)造りの本殿と神楽殿が、玉砂利の参道と背景となる深い森の緑に調和して、なんともいえない爽やかさと、厳かな雰囲気を生み出しています。(この森は昭和 13 年、皇紀 2600 年の祝典行事として、全国の都道府県の人々がその土地の樹木を持参し植樹しました。今では約 450 種、15 万本の樹木が生い茂り見事な森林を形成している)今年 4 月には、神武天皇が崩御されて 2600 年となり大祭が行われます。





寒波の中？ 檜原神宮前駅の中央改札口に集合、参加者 21 人(今井町で 1 人合流)となりました。

スタート直後から、比較的暖かな陽射しに恵まれて、降水確率60%予報の雨や雪にも出くわさず、無事に今井町での解散迄、辿りつけました、此れはひとえに参加の皆さんの日頃の、良い行いの賜物だと思います。有難う御座いました。・・・、

檜原神宮の大絵馬の前で、参拝記念に、何時もの集合写真を撮影しました。



若桜友苑

第二次世界大戦で亡くなった空母「瑞鶴」の乗組員や海軍兵士の御霊を祭る。毎年桜の時期に慰霊祭を行う。



神武天皇（じんむてんのう）陵・初代 神武天皇

神武天皇は、日本神話に登場する人物であり、古事記や日本書紀によれば日本の初代天皇で皇統の祖とされている。日本書紀によると、天皇在位は神武天皇元年 1 月 1 日～神武天皇 76 年 3 月 11 日とされる。日本書紀では、天皇は紀元前 711 年に生誕し前 585 年に 127 歳で崩御したと伝えている。日向を発った神武天皇は、瀬戸内海を東進し難波の浜に上陸しようとするが果たさず、地場の長随彦に破れて兄五瀬命（いつせのみこと）を失う。「日の御子等である我らが、日の昇る方角へ攻め入ったから負けた」と、難波から紀伊半島を迂回して、熊野から大台ヶ原山中を越えて奈良盆地へ入る。そして長随彦を滅ぼし橿原宮での即位となるのである。勿論、寿命 127 歳からして、この物語が史実そのままであると人は少ない。しかし、西から来た武装集団が近畿勢と戦って勝利し、勢力圏を近畿内に確立し、後に大和朝廷を成立させる源になったと考えられる。



綏靖天皇（すいぜいてんのう）陵・第2代 綏靖天皇

綏靖天皇は、古事記・日本書紀に記されている日本の第2代天皇である。天皇在位は紀元前581年2月23日～紀元前549年6月28日。84歳で崩御。神武天皇には3人の息子がいた。長男は最初のお妃の子で、次男、三男は二人目のお妃の子供である。神武天皇が崩御された後、長男は義母である二人目のお妃を略奪結婚し、その上、弟たちを殺害し自分が天皇に即位しようと計画した。その事を知った母が歌を詠んで我が子に危険を知らせた。二人の弟が逆に長兄の殺害を計画し、寝ていた長兄を襲う。しかし、次兄は手が震えて殺すことが出来ず、弟が兄から刀を奪って長兄を殺す。次兄はこの失態を深く恥じ弟に皇位を譲り、自分は天皇を助けて神祇を掌ることとなった。この次男が後の“古事記”を編纂した“太安万侶”の祖先である。綏靖天皇（第2代）から開化天皇（第9代）までの8代の天皇は、『日本書紀』『古事記』に事績の記載が極めて少ないため「欠史八代」と称される。これらの天皇は、治世の長さが不自然であること、7世紀以後に一般的になるはずの父子間の直系相続であること、宮・陵の所在地が前期古墳の分布と一致しないこと等から、極めて創作性が強いとされる。一方で宮号に関する原典の存在、年数の嵩上げに天皇代数の尊重が見られること等から、全てを虚構とすることには否定する見解もある。南北朝時代の編とされる『神道集』によれば、綏靖天皇には食人の趣味があり、朝夕に7人もの人々を食べて周囲を恐怖に陥れたため、人々は「近く火の雨が降る」との虚言を弄し、天皇を岩屋に幽閉して難を逃れたという。



20日当日は鳥居が撤去されて工事中だった為、此の1枚は、17日の下見の時に撮ったもの・・・



今井まちなみ交流センター（休憩&ビデオ鑑賞）

明治 36 年（1903）高市郡教育博物館として建設され、昭和 4 年より今井町役場にも使用されていました。当時、奈良県の社会教育施設としては、奈良市所在の重要文化財「旧帝国博物館」に次ぐものでした。現在は、今井町の歴史を詳しく、分かりやすく解説する資料を一堂に集めた資料館として、展示コーナー、映像シアター、図書閲覧室などがあり、今井町の歴史をさまざまな角度から知ることができます。

蘇武之井公園・蘇武之井公園で昼食



今井町

飛鳥川の流れにかかった蘇武橋を渡ると、現在も江戸時代そのままのたたずまいと情緒を残す町・今井町があります。江戸時代そのまま残され、時代劇の撮影などにも使われる町並みは、世界的に貴重な財産であり、平成 5 年「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を受けています。東西約 600m、南北約 310m の中に、約 500 棟の伝統的建造物があり、全国で最も多い地区となっています。また、国の重要文化財が 9 件、県指定文化財が 3 件、市指定文化財が 5 件あります。地元の材料を使い、近隣の職人によって暮らす人に便利のように工夫された一軒一軒の家は、土地の風土や自然、歴史をはっきり反映しており、民家建築の貴重な財産でもあります。これらの家々が並ぶ町の様子にも、商業が繁栄し、外部からの侵入者を拒絶、独立した自治都市を築いた歴史が表されています。



今井町 安土桃山時代

1568 年（永禄 11 年）織田信長が足利義昭を奉じて入京すると、松永久秀は信長に従属し、大和一国の支配を認められた。信長の援軍により、筒井氏はつぎつぎと落城し、十市氏は筒井方と松永方（今井へ移住）に分裂した。しかし、1571 年（元亀 2 年）久秀は三好三人衆と和睦して信長に反旗を翻し、信長包囲網の一環として石山本願寺と呼応した。今井郷も石山合戦の際には、石山本願寺、三好三人衆について織田信長に反抗し、堀を深くし土塁や見通しを妨げる筋違いの道路等を築き柵形として虎口を固め、最前線である西口に櫓（城郭）を設け、今西家を城構えとして環濠城塞都市となった。戦争を仕掛ける為でなく自衛のためにつくった要塞都市の一つである。1575 年（天正 3 年）、織田信長の降伏勧告を拒絶した在郷武士団（十市家、川合家の一族郎党）や長島一向一揆の牢人などを中心とした今井郷民が蹶起し、佐久間信盛を大将とした明智光秀配属の筒井順慶率いる織田の軍勢と半年あまり戦った。しかし、一向宗率いる顕如が信長に和睦を申し入れたために降伏を余儀なくされた。そして、明智光秀や筒井順慶と親しい堺の豪商津田宗及の斡旋により今井郷に対して赦免状が与えられ信長と和した。同年冬に信長は、今西家南側に本陣を構え、武装放棄を条件に「萬事大坂同前」として、この町に大阪と同じように検断権（自治権）を認めた。このようにして、自治都市として「海の堺」「陸の今井」と並び称されるまでに栄えた。特に堺との交流は深く、竹之内街道を通じ幕末まで毎日行き来した。また、江戸時代に鎖国政策が採られるまでは、堺と共にホイアン・トンキン・タイ・ルソン・カンボジアなどの東南アジア諸国との交易が盛んであった。

河合家住宅&河合酒造

中尊坊通りの西よりにあります。東および南側の道路に接して、東妻入母屋造、西妻切妻造、南東に土庇（どびさし）が付き、本瓦葺となっています。外観の 2 階は白漆喰塗籠めとし、丸窓を開け、優れた意匠を示しています。今井町では比較的早い時期の 2 階建町家で 2 階に座敷などが設けられており、豪商の片鱗がうかがえる建物です。江戸時代初期頃、上品寺村より移住し、古くより「上品寺屋(じょうぼんじや)」の屋号で酒造業を営んでおり、現在も造り酒屋を営業しております。





河合酒造;代表銘柄「出世男」縁起の良い名前、他に「香久山」「うねび」「上品寺屋」「宗久」と「酒ケーキ」等



河合酒造でのお酒の試飲、酒ケーキ&奈良漬の試食等を堪能して、河合酒造を後に、NHK朝ドラのロケ場所を訪問した後に、一旦解散としました。

解散後は、今井町内散策、今西家見学等に行くGrと、八木西口駅へ帰るGrに別れての行動となりました...